

(1) 団体の概要

- ・ 名称，所在地： 特定非営利活動法人 TAMASU，大和村
- ・ 代表者： 中村 修（なかむら おさむ）氏
- ・ 支援集落等： 大和村国直集落

(2) 設立の目的

- ・ 集落の青壮年団（20～60代）が中心となり，「祖先から受け継いだ自然や文化，コミュニティなどの地域の宝を守り伝え，島に関わる全ての人がかち合える環境をつくる」ことを目的に，H27年3月設立。
- ・ 奄美大島の漁労や狩猟で得た獲物を神に捧げ感謝した後，人々に平等に配分する「たます分け」と呼ばれる習わしが名前の由来。

これまでの貢献の概要

<住民の得意技や集落の暮らしを活かした体験交流事業>

- ・ 地域資源や地域住民それぞれの得意分野を生かした住民が主役となる「奄美大島国直集落まるごと体験交流」と名付けた約40種類の自然や文化を体験できるプログラムを構築し，都市農村交流による地域の活性化に貢献。
- ・ 体験交流の取組では，若者・高齢者など，全ての年代が活躍できる内容であり，高齢者の生きがいづくりにもつながっている。
- ・ 多くの体験プログラムを提供する仕組みにより，コミュニティビジネスとして雇用の場を創出し，U・Iターン者の定住促進につながっている。

<地域内外への波及効果>

- ・ ワークショップや話し合い活動を通して，国直集落の将来像を住民で共有し，その実現に向け，住民一体となったむらづくりを実践している。
また，地域住民合意のもとに観光を利用した地域づくりを進めるため，「集落づくりと観光に関するアンケート調査」を定期的に行い，地域住民の意見を取り入れた地域活性化に取り組んでいる。
- ・ 集落の原風景であるフクギ並木の景観維持のため，植樹活動などの保全再生活動に積極的に取り組み，その取組が評価され，「かごしま・人・まち・デザイン賞（景観づくり部門）【H29】」を受賞し，地域住民の景観保持の意識が高まる機会となった。
- ・ 絶滅の危機に瀕していた宮古崎のツツジ再生のため，植樹活動の実施や宮古崎の景観のすばらしさを知ってもらうためのウォーキング大会を開催するなど，地域住民はもとより地域外の来訪者の景観保全も意識を高めている。
- ・ 国直集落の美しい自然景観を活かした「国直フォトコンテスト」を開催。入賞作品をカレンダーにして販売するなど地域の魅力を地域内外へ発信している。

今後の展望

- ・ 農家民宿等の開業をコーディネートすることにより、滞在型の受入を可能とし、現在実施している体験プログラムと併せて、交流人口の増加と住民の所得向上に取り組む。
- ・ 現在の取組を奄美大島全体に波及させ、奄美大島一体となった滞在型観光により地域の活性化に取り組む。

○ 活動状況写真



タンカン収穫と加工品づくり体験



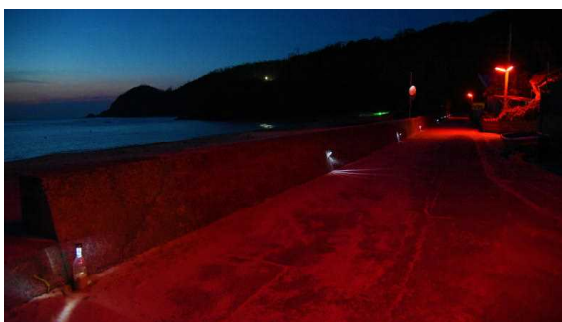
郷土料理（ウワンフネ）の調理体験



フクギ並木の景観保全（ナイトツアー）



ツツジ保全のため植樹活動の実施



ウミガメ等の生態系保全活動（街灯の保護）



地域住民との意見交換
(ワークショップの開催)